

— 特 許 記 事 —

最近の製鉄鋼業界に於ける発明

特許出願公告 (昭和 31—7—10)

- 公告番号 発 明 の 名 称 (発明者) 出願人
 昭 31—5501 熱 風 熔 解 炉 (星野信嗣) 同 人
 炉本体の外周に風洞を設け熱板を境として排気洞を風洞の外方に設け、該熱板にベローズを取付けて伸縮自在となし炉頂にバイパスを隔てて炉頂環を設け、傾斜パイプ群に依り風洞に連結し排気洞の上部に炉頂瓦斯再燃用 2 次空気環を設け噴出孔を下向に開口させ、排気洞に覗き穴を開口させ、排気洞に連なつて煙道を設け送気管の一端を煙道中に設けた第 2 次加熱環の上部一側から切線方向に出し、送気管の他端を風洞の上部に設けた炉頂環の一側に切線方向に連結したものの。

特許出願公告 (昭和 31—7—4)

- 昭 31—5704 チルドロール製錬鑄造法 (大谷孝吉) 同 人
 反射炉内に於て常温程度の攪動空気を万遍なく渦動状運動を起すように急速に導入し、鎔融銑鉄に均齊な機械的勢力を与えて、鎔融鉄中に共存したまたは生成する有害ガスを外部に誘導逸散させて後出銑しこれを普通のようにチルドロール鑄型に注入して凝固冷却を行う方法。
 昭 31—5707 粒状化黒鉛鎔着鉄の製法 (横田清義) 財団法人早稲田大学
 軟鋼心線または鑄鉄心線にアクチノライトを主成分として含有させた被覆剤を塗布した鎔接棒をもつて鑄鉄に鎔着し、鎔着鉄中の黒鉛を粉状化する方法。

特許出願公告 (昭和 31—7—18)

- 昭 31—5858 鉄の酸化皮膜形成処理法 (大村 静) 同 人
 被処理鉄板を所定の前処理後磷酸亜鉛に硝酸亜鉛を混じ、之に鉄、マンガン及び銅の各燐酸塩を混溶した溶液に浸漬し、之を取上げて次の瞬間タンニン剤で処理する方法。
 昭 31—5859 金属管内壁の電気的防蝕被覆法 (重野隼太) 工業技術院長
 腐蝕性液体を流過または充填する金属管の略中心軸に沿い複数个の不溶性陽極を取付けた絶縁電線を投入し、適当な外部電源を用いてこの金属管内壁に所要の防蝕電流を通じてこれを電気的に防蝕する方法についての改良。

特許出願公告 (昭和 31—7—31)

- 昭 31—6406 球状黒鉛鑄鉄の製法 (エドワード・フランシス・クルンジンスキ外 3)
 ユニオン・カーバイド・エンド・カーボン・コーポレーション(米)
 球状黒鉛化剤及び接種剤としての両作用をなす物質を不活性ガス気流中に混入してこれを鎔融鑄鉄中に吹込んで球状黒鉛鑄鉄を製造するに当り、該混合物と一緒に難鎔融性稀釈剤を前記吹込まべき全物質の 40~70 重量%に達する量において吹込む方法。
 昭 31—6407 可鍛鉄鑄物の製造法 (クラエス・ベルグ) アクチボラゲット・オベルムス・ブルグ (スエーデン)
 鑄鉄部品として高磨耗抵抗を有するように鑄物の性質と熱処理工程とを調節する方法。

特許出願公告 (昭和 31—8—4)

- 昭 31—6505 真 空 焼 鈍 炉 (石黒隆榮) 同 人
 炉室を 2 分してその一方に耐火物質製熱炉を架設し下方室の底部に設けた廻転装置により移動される螺子杆頭部の受台に被焼鈍物を載せて上部加熱炉で加熱したものを下方室に移すと共に両室の間に設けた抜差弁によつて両室を全く遮断し冷却後取出口から取出すようにしたもの。
 昭 31—6507 鉍石例へば鉄鉍石の如きものの製錬方法 (オッドー・ディートリヒ)
 クレックネル・フムボルト・ドイツ・アクチエンゲゼルシャフト(独)
 細粒状の鉍石、燃料、結合剤からなる団鉍化した混合物を出来るだけ一様の送りを以て向合つた 1 列の送風羽口の巨離が約 3m 以下の鎔鉍炉中に入れ装入物の高さを羽口上約 2~6m に保ちつつ融解し、タールは凝縮により鎔鉍炉ガスから取去られるようにした方法。

特許出願公告 (昭和 31—8—10)

- 昭 31—6714 鉄鋼及び鑄物の表面に耐蝕性ある光沢被覆を作る方法 (飯高一郎外 2) 学校法人早稲田大学
 鉄鋼及び鑄物の表面を清浄操作後、材料の表面に 99.7% 程度アルミニウム被覆をする前処理工程と、99.9% 程度以上の高純度のアルミニウムの浸透被覆を形成する工程と、之に電解研磨或は化学研磨処理と陽極電解処理とを施す後処理工程との結合になる方法。

特許出願公告 (昭和 31—8—14)

- 昭 31—6804 球状黒鉛鑄鉄の製造方法 (足立宜夫外 1) ダイハツ工業 K.K.
 鎔解鑄鉄に対し若干量の MgF_2 及び $CaSi_2$ を同時に或いは相前後して添加反応せしめる方法。